

令和 8 年度総務常任委員会行政視察研修報告書

- 1 目 的 所管事務調査先進地視察（行政視察研修）
- 2 実施日 令和 8 年 5 月 12 日（火）～14 日（木）
- 3 視 察 地 株式会社 パソナグループ（兵庫県淡路市）
徳島県阿波市
高松丸亀町商店街振興組合（香川県高松市）
- 4 視察内容 株式会社 パソナグループ「地方創生セミナー及び廃校活用施設見学」
徳島県阿波市「複合型防災拠点と住民共助による減災施策」
高松丸亀町商店街「100 年続く街づくり」への挑戦
「高松丸亀町モデル」の調査研究
- 5 参 加 者 委員長 石岡 祐二
副委員長 大河原 千晶
委 員 高瀬 一徳
委 員 加藤 朋子
委 員 鈴木 恒充
委 員 小堀 勇人
執行部職員 2 名
事務局職員 1 名

株式会社 パソナグループ（兵庫県淡路市）

視察日 令和 8 年 5 月 12 日（火）

1 淡路市の概要

淡路島の北部に位置し、東に大阪湾、西に播磨灘を臨んでいる。淡路島全体の約 3 割を占め、本州と四国を結ぶ大動脈・神戸淡路鳴門自動車道が通り、交通の要衝となっている。

線香が地場産業で、生産量は国内首位を誇る。農業では、「淡路島たまねぎ」やビワ、イチジク、「淡路ビーフ」などが特産品となっており、カーネーション栽培も盛んである。

人口 40,428 人 面積 184.24 km²

議員定数 18 人 会派 6 会派

2 視察内容

パソナグループは、2008 年から淡路島で農業の活性化と独立就農を目指すチャレンジファームを皮切りに、「人材誘致」による独自の地域活性事業に取り組んでおり、これまでに島内で多くの雇用を創出し、地域資源を活かしたさまざまな施設の開設やイベントの開催を行っている。

少子高齢化や過疎化などのさまざまな問題に対する取り組みについて、パソナグループの概要や本社機能の一部移転に関する内容および背景、さらに真の豊かな働き方や生き方について、地方創生事業で見据える未来のビジョンを学ぶためのセミナーを受講する。また、併せて廃校活用による地域活性化モデルや、ワーケーション&ハイブリッドキャリアなど幅広いジャンルでの淡路島における取り組みを学ぶ。

3 所感

パソナグループが淡路島で展開する地方創生事業「のじまスコーラ」を視察し、民間企業ならではの発想と実行力による地域活性化の可能性を強く感じた。同グループは農業を軸に、地域資源を生かした様々な事業を展開しており、耕作放棄地を農地リース制度によって再生・活用する「チャレンジファーム」や、全国から若者を呼び込み、「半農×半芸」のライフスタイルを1年間体験する「ここから村プロジェクト」など、移住・定住や関係人口の拡大につながる意欲的な取り組みを進めている。

特に「半農×半芸」の考え方は印象的であった。芸術系を専攻した人材が、農業に携わりながら自身の専門分野も生かして働くことができる仕組みであり、働く側は自己実現の場を得られ、地域にとっては新たな人材の定着につながるという双方にメリットのあるモデルとなっている。これらの事業は、就労者約 2,000 人、関係人口 160 万人超、地域経済への 100 億円を超える効果を生み出し、淡路島の地方創生を力強く後押ししている。

視察した「のじまスコーラ」は、廃校となった学校を大規模な改修を行わず、その雰囲気を生かして観光・交流拠点として再生した施設である。自治体にとっては遊休公共施設の有効活用や維持管理費の軽減につながり、地域には観光客の消費を呼び込む効果も期待できる。平日にもかかわらずレストランや売店は多くの来場者で賑わっており、民間企業が持つ「稼ぐ仕組みづくり」の重要性を実感した。

また、インバウンド観光客などターゲットを明確に絞った誘客戦略や、アバターを活用した遠隔接客による省人化・効率化など、行政にはない柔軟な発想も非常に参考になった。地方創生の成功を背景に、パソナグループは本社機能の一部を淡路島へ移転しており、大企業が地方を実証フィールドとして新たな挑戦を行うことで、地域に新しい価値が生まれる可能性を感じた。

一方で、この成功は関西圏という大都市に近い立地条件にも支えられている面があり、他地域で展開する際には地域特性を踏まえた工夫が必要であると感じた。行政においても、従来の発想にとらわれず、民間のノウハウを積極的に取り入れる姿勢が求められると感じた。



のじまスコーラ



研修の様子

徳島県阿波市

視察日 令和8年5月13日（水）

1 阿波市の概要

阿波市は、徳島県の中央北部に位置し、北は香川県に接している。北部には阿讃山脈が連なり、これらを源とする河川が扇状地を形成し、吉野川が流れている。

京阪神へ野菜を供給する県下有数の農業地帯を形成しており、ナスやブロッコリーの産出額は全国上位で、レタスやキュウリ、トマトの生産も多い。

人口 33,332人 面積 190.11km²

議員定数 18人 会派 6会派

2 視察内容

阿波市では、避難所と文化機能を併せ持つ「交流防災拠点 アエルワ」の運営など、地域特性を活かした独自の減災への取り組みを展開している。

「アエルワ」は、普段は多目的ホールとして使用し、災害時における機能を切り替え、支援物資やボランティアの受け入れ拠点となるなどの運用がされている。

また、「阿波市防災フェスタ」を運営し、市民の防災意識の向上を図ったり、地域資源を活用した減災施策についても実施している。

3 所感

アエルワは、市役所と一体となって整備された防災拠点であり、災害時には支援物資の搬入・仕分け・配送の中心施設として機能するほか、ヘリポートを備えることで陸路寸断時にも対応できる体制が整えられている。平常時は文化施設として市民に親しまれており、防災と日常利用を両立させた施設運営が行われている。

防災への取り組みでは、防災フェスタを終了し、「防災を楽しく学ぶ」段階から、各小学校区の自主防災組織の育成や地域ごとの実践的な防災訓練へ重点を移す方針が印象的であった。イベント型から地域主体型へと発展させる考え方は、防災まちづくりの進め方として大いに参考になる。また、市役所と連絡通路で結ばれ、食堂も職員と市民が共に利用できる環境は、日頃から顔の見える関係を築き、災害時の連携強化につながる仕組みであると感じた。

さらに、市職員で構成される「救援機動隊」が消防団の一組織として活動し、平日昼間の消防力を補完している点も特徴的である。市役所から直接現場へ出動し迅速な初動対応を可能としており、当市でも導入を検討する価値があると感じた。

また、指定管理制度では、指定管理者が利益を上げることが認め、ホール利用料を事業者の収入とすることで積極的な営業活動を促している。その結果、コンサートや各種イベントが活発に開催され、市民の文化活動の充実にもつながっている。施設全体を一括管理し、指定期間を一般的な3年ではなく5年としていることも、長期的な視点での運営やサービス向上、行政コストの削減に寄与する先進的な取り組みであると感じた。



アエルワホール



アエルワ食堂



救援機動隊

高松丸亀町商店街振興組合（香川県高松市）

視察日 令和8年5月14日（木）

1 高松市の概要

高松市は、香川県の県庁所在地で、県のほぼ中央に位置している。

気候は、年間を通して寒暖の差が小さく、降水量が少ないのが特色である。

高松城の城下町として栄え、国の出先機関や大企業の支店が集まる四国の中心都市として発展した。

人口 405,566 人 面積 375.54 km²

議員定数 40 人 会派 5 会派

2 視察内容

高松丸亀町商店街は、地方都市における中心市街地の空洞化（シャッター通り化）が課題となっている中、商店街再生の成功事例として有名である。

定期借地権による「土地の所有と利用の分離」という手法により、従来の商店街では困難であった収益性と利便性の両立を実現している。また、商店街を7つの街区に分け、約30年かけて順番に再開発を進めており、各街区に共通しているのは「下層階は商業、中層階は医療・オフィス、上層階は住居」という構造である。これにより、単なる買い物の場所ではなく、「多世代が健康に歩いて暮らせる街」を街区ごとに連続させている。さらに、各街区に明確なコンセプトを設けられ、ターゲットや機能が異なっている。

3 所感

高松丸亀町商店街の再生で最も印象的だったのは、1992年に導入した定期借地権による土地の所有権と利用権の分離である。土地所有者は所有権を維持しながら、まちづくり会社が街全体を一体的にプロデュースする仕組みにより、個々の利害を超えた再開発が可能となっていた。従前債務の解消という時代背景も追い風となり、「街を会社として経営する」という発想が成功の大きな要因であると感じた。

また、成功事例を模倣するのではなく、失敗事例を徹底的に分析して再生策を構築したという考え方も非常に参考になった。組合主導のイベントではなく、市民が主体となって活用できるパブリックスペースを整備し、まちづくり会社がそれを支援する仕組みに転換した結果、多数のイベントが自然発生的に開催され、継続的な賑わいを生み出していた。

さらに、「商店街を再生する」のではなく、「居住者を増やす」ことを最優先に据えた点も大きな特徴である。高齢者住宅、医療機能、商業施設を一体化し、街の中で安心して暮らし続けられる環境を整備することで、生活者が集まり、その結果として商業が成り立つという発想は極めて合理的であった。また、若者を無理に引き止めるのではなく、夢を持って送り出し、いつでも帰ってこられる受け皿を整えるという考え方にも共感した。

当市でも氏家駅東地区の再整備が計画されているが、施設整備そのものを目的とするのではなく、「誰が暮らし、どのような生活を送る街を目指すのか」という視点から計画を再考する必要性を強く感じた。



高松丸亀町商店街